

8/5
早福

大飯3号機海水漏れ

関電 発電機出力65%に低下

関西電力は四日、大飯原発3号機（おおい町）で、タービンを回した後の蒸気を冷やして水に戻す「復水器」につながる配管から海水が漏れたと発表した。復水器の性能を維持し、タービンを保護するため、発電機の出力を100%から65%に低下させた。放射性物質の漏れはなく環境への影響はないという。

関電によると、同日午前

五時五分ごろ、復水器に海水を送り込む配管の弁の部分から、海水が漏れていることを確認。この配管に付いている海水をくみ上げるポンプを午前七時四十分には停止させた。漏れた原因は調査中。復水器に海水を送り込む配管は二本あり、もう一本は稼働している。

大飯3号機は七月二日に運転を再開し、同二十日から営業運転に入っていた。